

藤森科学技術振興財団 2023年度募集要項

1. 趣旨

「より快適な社会の実現」に向けて社会の重要課題の解決に指針を与えるような先見的、創造的な機能（はたらき・しくみ）創造につながる科学技術研究へ幅広く助成を行います。

2. 研究助成対象

持続可能な未来社会への喫緊の課題である環境問題の解決に向けた機能を有する物質、材料、機構、設計、生産、社会システムに関わる萌芽的な研究（自然科学・工学と社会科学の両分野の研究で募集します）

例えば

- ①プラスチックなどの素材循環を促進する研究
- ②環境負荷を低減するエコマテリアルの研究
- ③再生可能資源に関する材料、環境保全材料の研究
- ④環境効率などの測定や評価指標、評価手法の研究
- ⑤環境科学システム、モデル構築の研究

3. 応募資格

- (1) 日本の大学・研究所等に勤務し、主体的に研究を進めている常勤の研究者、大学院後期課程在籍者およびポスドクを含みます。（所属機関長（理事長学長学部長学科長所長）の推薦が必要です）
- (2) 本財団に結果の報告書提出が可能な方。
- (3) 巾広い助成と助成成果の確認の為、前年度助成採択者を応募対象としません。

※同一または類似の研究について、他の財団（或いは競争的資金）等の助成金を受ける場合は申請書類にその旨を記載下さい。

4. 助成金額

助成金額は1件100万円（原則）、総額2,000万円以上を予定。

※採択にあたり、本財団は予算の減額調整を行うことがあります。

応募者本人及び共同研究者の人件費および所属する機関の間接経費や共通経費、あるいは一般管理費等(オーバーヘッド)は助成の対象に含みません。

助成金の使途は、申請された研究課題の遂行に要する物品の購入、その他研究推進に必要な費用とし、研究の目的と計画に照らして合理的な範囲とします。支出内容は記録に残し、研究終了後に「収支報告書」を「研究実施概要報告書」に併せて提出してください。

（報告方法・様式については、後日対象者に通知します）

助成金額に残余が生じた場合は、ご返却を願います。

5. 助成期間

2023年4月1日から2024年3月31日までの1年間（原則）。

（予期しなかった研究進捗の遅延があった場合や特別な制約がある場合、対象者の傷病、事故や被災等々の場合には、直ちにご連絡願います。個別に対応いたします。）

6. 応募方法

所定の申請書および推薦書（以下申請書という）をホームページ（<https://www.fujimori-f.or.jp>）よりダウンロードして印刷し、必要事項を和文で記入し、申請書1部及び所属機関の決算書（公開済の場合不要）を添付の上、郵送または宅配便にて本財団事務局 松原宛に提出してください。

①文字の大きさは10.5ポイントとしてください。

②申請書用紙に記載の指示に沿わない申請書は受理できないことがあります。

③書類不備がないよう送付前に十分に確認を行ってください。

なお、所定の申請書、資料に加え、更に詳しい書類等の提出をお願いすることがありますのでご協力ください。

また、申請書は、返却をいたしませんので、必要のものは複写するなどして、控えをご準備ください。

7. 募集期間

2022年11月1日から12月31日まで（当日消印有効）

8. 助成金の決定

(1) 本財団の選考委員会において、研究内容を選考の上、理事会において決定します。

(2) 選考結果は 書面にて2023年3月末までに申請者宛に通知します。

なお、審査の内容に関するお問い合わせには一切応じることは出来ません。

9. 助成金の贈呈

(1) 2023年4月、助成対象者に研究助成金を贈呈いたします。

(2) 助成金の贈呈にあたり、本財団所定の「誓約書」を別途提出していただきます。

(3) 原則として助成金の送金先は、会計の適正性を確保し、助成目的に沿った使用を図るため受給者が所属する機関の委任会計窓口とし、贈呈時期に所属機関の指定口座あてに送金手続きを行います。

(4) 助成金の送金にあたって、所属機関の所定の手続き(寄附申込書等)が必要な場合には、速やかにご連絡願います。

10. 研究成果の報告

(1) 助成対象者は研究終了後、2ヶ月以内に、本財団所定の書式に従って、「研究実施概要報告書」（和文にて、添付資料は図・表を含めてそれぞれ A4 版3枚以内）を作成し、本財団まで提出してください。

- (2) 研究実施概要報告書には学会発表された要旨や論文などを添付して下さい。未公表の場合は予定を記載の上、後日抜刷りをお送り下さい。助成期間終了以降も当該助成によって得られた成果に関連する論文や外部発表された場合は、写し（別刷、pdf等）を財団に1部ご提出願います。
- (3) 研究成果を発表する場合は、本財団の助成を受けた（藤森科学技術振興財団、英語名は Fujimori Science and Technology Foundation の支援を受けた）ことを明示いただくようお願いしています。
- (4) ご提出頂いた研究実施概要報告書は情報公開の対象とさせて頂き、本財団のホームページに掲載します。報告書の内容に未公開の知見が含まれるなど、公開に差し障りがある場合には、公開内容について本財団にご相談下さい。

11. その他注意事項

- (1) 助成金の内定を受けた後、研究計画等に重要な変更、中止をしようとする場合には、速やかに文書にて、本財団まで報告をしてください。
- (2) 以下の事項が発生した場合は、助成金の交付取り消しまたは一部の返還を求めることがあります。
 - ・申請内容に大幅な変更が生じて連絡がない場合
 - ・助成期間内で研究を中止した場合
 - ・助成した研究に虚偽の内容を含む場合
 - ・必要書類の提出を怠った場合
 - ・その他研究助成にふさわしくないと理事会または選考委員会が判断した場合
- (3) 助成の一部について過年度成果実績等を踏まえ、助成金額の100万円増額、助成期間の1年間追加及び特別表彰をすることが有ります。（本項は前年採択者も対象とします）

12. 個人情報の取扱いについて

- (1) 申請書に含まれる個人情報は、研究助成の選考及び選考結果のご通知のために使用いたします。
- (2) 助成対象は、研究代表者のお名前、所属機関、役職及び研究テーマを公表いたします。
又、助成対象者の集合写真を本財団のホームページに掲載します。

13. 応募先、お問い合わせ

〒112-0002 東京都文京区小石川 1-1-1 文京ガーデンゲートタワー22階
公益財団法人 藤森科学技術振興財団
事務局長 松原 文男
Tel 03-5804-4240
受付時間 平日9時～17時（財団休業日を除く）
E-mail : fujimorizaidan@fujimori-f.or.jp

以上

採択実績一覧

採 択 研 究	
年度	テーマ名
20	輸送機器軽量化による環境負荷低減を目的とした高強度マグネシウム合金の開発
19	二酸化炭素の水素ガスによる還元反応を促進するケイ素触媒の開発
19	分子内エキシマー形成を利用した近紫外線-可視光変換分子の開発
19	光制御型メカノプローブの開発と高分子材料の破壊・疲労・劣化現象の機構解明
20	ナノセルロースの精密活用に向けたリアルタイム解繊度解析システムの開発
20	水分子を可視化する機能性色素材料の開発と水分検出定量化蛍光分析法の確立
22	分子鎖のトポロジー制御による強靱なペプチド型生体材料の開発
20	マイクロプラスチックを介した環境水中医薬品およびパーソナルケア製品の移動
20	結合交換型動的共有結合架橋が拓く接着剤フリーでの強接着性樹脂の開発
20	低利用バイオポリマー・リグニンの有効利用法に関する研究
20	環境水中汚染物質を高度選択的に吸着するペプチド系金属有機構造体の開発
20	ほとんど水からなる動的フォトリソグラフィ結晶を用いたバイオセンサー
20	4次元燃焼解析を導入したシステムティックな不燃材料開発
20	中赤外光コム光源技術の開発による新たな環境計測技術の創出
22	スーパーエンジニアリングプラスチックの革新的化学変換法の開発
21	ジスルフィド結合の開裂を鍵とする分解性バイオポリウレタンの開発
21	フルパッシブ環境センシングに向けた空間電磁界からの電力再生技術の開発
21	微細藻類を用いたマイクロプラスチック除去技術の開発
21	揮発性有機分子を検知・除去可能な発光センシングシステムの開発
20	二酸化炭素を原料とする医薬品中間体の合成
20	全固体電池の長サイクル寿命化に向けた体積膨張緩和を実現する革新的負極材料の創製
20	超分子結晶触媒によるフラン誘導体の精密分子認識と立体選択的変換反応の開発
20	バイオ由来ヒドロキシ酸とイタコン酸をベースとした環境分解型光変形材料の開発
22	自然を模倣した高次分子集合構造を有する人工光合成モデルの構築
20	太陽電池利用を目指した酸化チタン上への二次元POM集積体の成膜化
22	エンジニアリングプラスチックが実現するアーティファクトを軽減した次世代脳動脈瘤頸部閉鎖用クリップ
22	配位高分子を利用したCO ₂ の再資源化効率向上
20	医療技術の発展に潜む環境汚染問題を解決する革新的ガドリニウム捕集技術の開発
20	脱炭素社会に向けた木質バイオマスを活用した新規機能性材料の創製
20	連続照射マイクロ波を用いる省電力物質製造法の開発
20	高効率エネルギーハーベスティングに向けた酸化物磁性体の開発